

最終発表

チーム名 : 安全ひろめるBoys
アプリ名 : 安全ひろめるくん

概要

- 課題
- ターゲット
- アプリの説明
 - 機能が課題をどう解決するか
 - 機能ごとの技術的な話

課題

Localな情報共有ができていない、情報伝達が遅い

→災害の情報共有がIT化されていない



課題



ターゲット

誰がどう困る？



小中学生の親が学校と危険な場所の情報を共有できない（大雨の時など）

観光客が危険な場所を認知できない



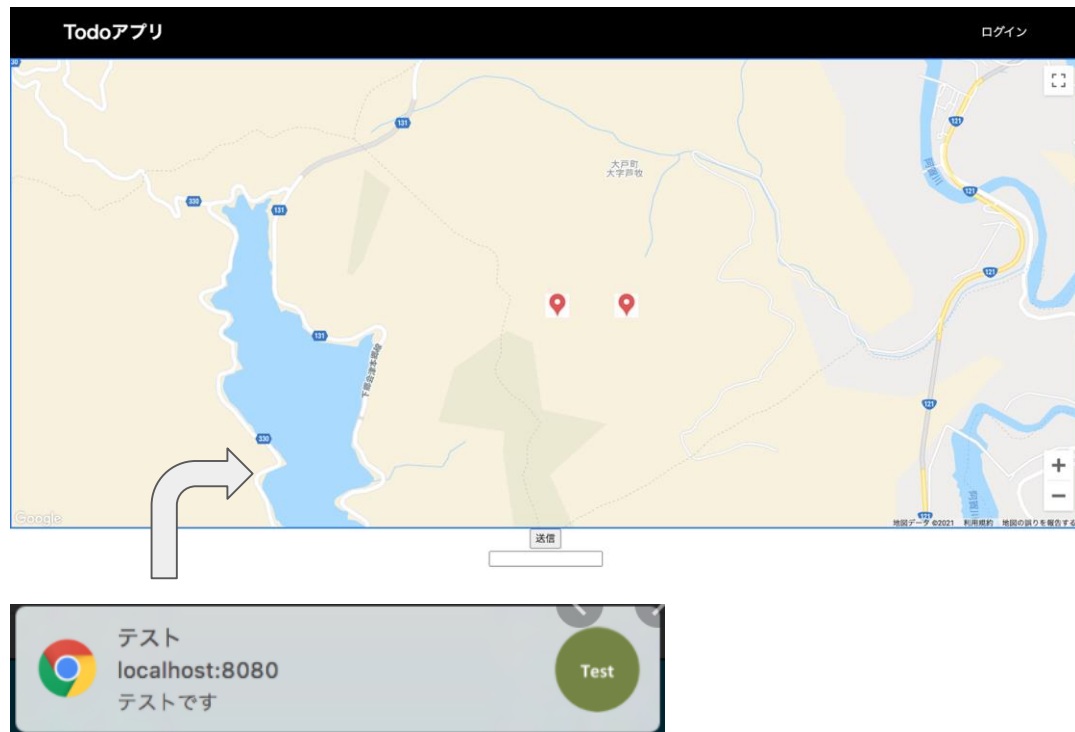
危険な場所... (ex 土砂崩れが起きやすい場所、道路に穴が空いている場所、川の増水で危険になる場所)

安全ひろめるくん

ブラウザから危険な場所を確認できる

危険な場所に近づくとプッシュ通知が来る

誰でも登録できて、新しい危険な場所を共有できる



メリット

1. アプリ入れる必要性

→ マップはURLで共有できるからアプリインストールの必要なし

1. 情報が遅い

→ 最新の情報を共有できる

1. 親が直接危ない場所を知る機会が無い

→ 学校からのメール連絡網などを利用してマップを共有できる

1. 潜在的な危ない場所がわかる

→蓄積したデータから予想ができる

アーキテクチャ

使用したツール

マップ周り

- react
- googlemap
- firebase

プッシュ通知

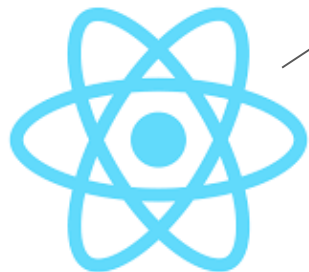
- firebase
cloud messaging
- service worker



座標を
取得



座標を保存&取
得



レンダリング

プッシュ通知

service worker

